

第1回 新一般廃棄物最終処分場候補地選定委員会 会議録

- 1 開催日時 令和5年11月17日（金）午後1時から午後2時50分まで
- 2 開催場所 名取市役所議会棟第3・第4委員会室
- 3 出席者
 - (1) 委員
濱田 雅巳 委員（委員長）、山田 一裕 委員（副委員長）、山口 晶 委員
劉^ゆ庭^{じよん}秀^す 委員、後藤 康宏 委員
 - (2) 事務局（名取市）
小畑生活経済部長、加藤生活経済部次長兼クリーン対策課長、
朽木クリーン対策課長補佐兼クリーン対策係長、高梨クリーン対策係主事
 - (3) オブザーバー（亘理名取共立衛生処理組合）
山田業務課長、水戸業務課長補佐
- 4 会議の公開・非公開の別
公開で開催
- 5 傍聴者 4名
- 6 会議の記録方法
委員名を除いた要点筆記
- 7 挨拶 山田市長 ※委員長が選任された後に公務のため退席

最終処分場を本市に整備をすることになっているが、課題も多く候補地の選定に至っていない。市としては、これまでの取り組みに対する経過を踏まえ、委員各位の専門的知識や経験からご意見を伺い、客観的、合理的な視点から候補地を選定していきたい。
- 8 委員長・副委員長の互選

委員長、副委員長の立候補、推薦の発言がなく、次のとおり事務局案を提出。
委員長：濱田 雅巳 委員
副委員長：山田 一裕 委員
事務局案に対する異議の発言がないことから、案のとおり選任された。
- 9 一般廃棄物の最終処分場の選定経過等について

資料1・2に基づき、1 これまでの経過等、2 名取市における候補地選定経過、3 現在

の処理状況、4候補地選定方法について事務局より説明

以下、委員からの意見等

<委員>

現在の処理状況において、民間への運搬処理はどこへ搬出しているのか。

<事務局>

具体的な委託先は申し上げられないが、県外へ搬出して処理をしている。

<委員>

平成20年度の候補地選定の経過で、焼却方法が変わり埋立て容量も変更になったとのことだが、どういう方法に変わったのか。

<事務局>

焼却の方法に熔融炉方式とストーカー方式があり、ストーカー方式に変更となった。ストーカー方式は灰の排出量が増えるため、7万 m^3 から10万 m^3 に埋立容量が変更となった。

<委員>

埋立容量10万 m^3 というのは、何年間くらいを想定しているのか。

<事務局>

埋立容量は、概ね15年を目安にしているが、ごみの減量化やプラスチック資源の再利用といった可燃ごみを減らす方策により、できるだけ使用期間を延ばしていきたい。

<委員>

事業費はどのくらいが上限になると考えているのか。

<事務局>

組合としては、目安として50億円程度を見込んでいる。

10 議 事

(1) 新一般廃棄物最終処分場の候補地選定方法（案）について

①新一般廃棄物最終処分場の候補地選定の進め方について

資料3に基づき、今後の進め方について事務局より説明

以下、委員からの意見等

<委員>

住民説明会の開催方法は、段階によって変わるのか。

<事務局>

最初の段階では市内全域を対象とした説明会、ある程度具体的な候補地が絞り込まれた段階では個々の地区への説明会、最終的な候補地が選定された際は、市内全域を対象とし

た説明会と候補地となった地区への説明会を考えている。

<委員>

住民説明会は該当地区で複数回開催する予定なのか。また、パブリックコメントの実施予定はあるのか。パブリックコメントで、住民から広く意見を聞く機会があってもよいと思う。

<事務局>

住民の理解を得るためには複数回の説明会が必要になると考えている。パブリックコメントの実施は、今のところ想定していない。

<委員>

過去の候補地選定と今回の候補地選定は、同じ手法なのか。

<事務局>

これまでは、市内部で選定した候補地、または公募により募集した候補地である。今回は新しい手法による選定となる。

<委員>

事務局の案では、何をどのように進めるのかが見えてこない。3箇所程度を選定したら詳細調査となっているが、最初の評価基準と詳細調査の評価基準が異ならないように、評価項目を最初の段階で明らかにするなど、委員会の進め方を整理してもらいたい。

<委員>

選定過程が途切れ途切れになるのではなく、流れるように進めた方がよい。例えば、詳細調査は、実施した後でそれをどのように加味するかを考えるのではなく、その調査で注視する点は何なのかを最初の段階で明らかにするべき。

<委員>

3箇所選定できたとしても、評価項目による優先順位をつけて進める必要があるのではないか。

<事務局>

(上記3つの意見について) 次回の委員会までに検討する。

②新一般廃棄物最終処分場の候補地選定基準について

資料4・5に基づき、今後の進め方について事務局より説明

以下、委員からの意見等

<委員>

資料4別表(A) No11農業振興地域(農用地区域)の例外規定は、(B) No3農業振興地域(農用地区域以外)にも記載がないと整合性が取れないのではないか。

<事務局>

修正し整合を図る。

<委員>

資料4別表(C)生活環境の影響から除外すべき区域で、500m程度の範囲となっているが、地形によっては視界に入らない範囲に建設可能な場所もあると思うが、その解釈はどのように考えているか。

<事務局>

無条件に、直線距離500m程度で整理をしたい。

<委員>

最終処分場は、臭いは考慮する必要はないのか。もし臭いが関係しないのであれば、重機の出入りといった視覚的なもので500mと設定したのか。

<事務局>

市で先進地視察を行っているが、屋根付きのクローズド型についてはほとんど臭いを感じない施設である。以前、市の愛島地区にもオープン型の施設があったが、それほど臭いは問題になっていないと思う。500mは、都市清掃会議の文献や他自治体の事例を参考に設定した。

<委員>

経済性といった、焼却施設から候補地までの距離、運搬量から算出されるコストについても考慮すべきではないか。

<委員>

候補地の地形によって、掘るのか、斜面を利用するのかによってもコストが異なるので、それらも検討すべき。また、住宅地から500m程度離すとのことだが、搬入路へのトラックの出入りといった生活環境の面も考慮する必要がある。

<委員>

資料4で示されている組合から提示された選定要件を条件として取り入れるのかについて、最初の段階で整理をした方がよい。

<委員>

法的条件や物理的条件で整理をした後、次は何を評価項目として整理していくのか、最初の段階ではっきりさせておく必要がある。それから、現在の土地利用形態も見ておいた方がよい。

<委員>

一次スクリーニング(図上調査)で議論すること、二次スクリーニング(3箇所程度まで絞り込み)で議論すること、三次スクリーニング(詳細調査)で議論することを整理して説明してもらいたい。

<事務局>

(上記5つの意見について) 次回の委員会までに検討する。

<委員>

利水に対するリスクを下げるため、処理水を下水道に放流する可能性はないのか。

<事務局>

下水道への放流先が確保できればあり得る。

<委員>

津波や洪水といった自然条件はどこまで考慮するのか。

<事務局>

津波や洪水による浸水区域について、図上調査の除外条件には含めていない。

③新一般廃棄物最終処分場の選定に係るスケジュールについて

資料6に基づき、今後の進め方について事務局より説明

以下、委員からの意見等

<委員>

この時期までに絶対決めなければならないというのはあるのか。

<事務局>

住民同意がないと進まない事業でもあるので、令和7年度までずれ込む可能性もあると考えている。

<委員>

今後の作業工程に対して、いつ委員会を開催して何を議論するのが分かるスケジュール表を提示してもらいたい。

<事務局>

次回の委員会までに検討する。

11 その他

- ・事務局から、参考資料として配布していた「亘理名取共立衛生処理組合管内のごみ処理の現状について」を説明。
- ・次回の第2回委員会は令和6年1月17日(水)とするが、事務局の作業の進捗により遅れる場合は再調整をする。